

I. 決算総括(3Q21累計)

単位: 億円
 +% = 前年同期比
 QoQ = 前四半期比

法人ストック積み上げによる増収・増益モデルが継続進展

中長期で蓄積してきたネットワーク(NW)・サービス資産・開発/運用力でIT利活用拡大需要を捕捉

売上		営業利益		営業利益率		当期利益	
1,656.0億円	+6.1%	163.0億円	+60.9%	9.8%	+3.3Pt	115.2億円	+96.1%

NWサービス (除モバイル)

- IPサービス売上 100.7億円 +12.0% 企業インターネットトラフィック増で継続増収
- アウトソーシングサービス売上 298.3億円 +13.5% セキュリティ継続牽引に加えVPN・NWマネジメント関連サービス需要も伸長
 - ・ うちセキュリティサービス売上 161.5億円 +18.7% メール・Webゲートウェイ等の従来サービス継続増収にC-SOC・SASE等も成長
- WANサービス売上 194.0億円 +4.3% 企業NW複合提案等でWAN提供機会増加

モバイル (法人+個人)

- モバイル総回線数(3Q末) 337.5万 +9.3万QoQ
- 法人(除MVNE)売上 75.2億円 +36.3% フルMVNO優位性・顧客基盤・ソリューション提案力でIoT案件積み上げ継続
- ギガプラン回線数(3Q末) 60.7万 (新規34% +5.1万QoQ) MVNOトップシェア18.2% ギガプラン投入でシェア向上
(MM総研調べ、21年9月末時点)
- FY20ドコモ モバイル接続料単価 前年比12.7%減確定(21年12月末)で3Q費用減効果

システム インテグレーション (SI)

- SI構築: 売上 244.1億円 +12.6% 受注 265.0億円 +10.7% 受注残(3Q末) 112.5億円 +15.3%
 - ・ 引き続き旺盛なNWインテグレーション需要: インターネットゲートウェイクラウド化・セキュリティ強化・DR環境構築等
- PTC連結影響(21年4月より連結子会社): 売上 53.0億円、営業利益 2.6億円 コロナ禍行動規制下で進捗やや遅れ気味

トピックス

- ◆ データセンター需要増に備え白井DCキャンパス2期棟追加へ 23年4月より順次稼働開始しFY27までのコロケーション需要に対応
- ◆ ゼロトラストを実現するよりセキュアな新リモートアクセスサービス「IIJフレックスモビリティ/ZTNA」提供開始(22年1月)
- ◆ 「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度(ISMAP)」サービスリストに「IIJ GIO インフラストラクチャー P2」登録(21年12月)
- ◆ 持分法適用会社 ディーカレットホールディングス 暗号資産事業売却しデジタル通貨事業へリソース集中(22年2月)

- ・ 当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示。
- ・ C-SOC・SASE等の当社が提供するセキュリティサービスの詳細は本資料18頁参照

Ⅱ-1. 連結業績サマリー

単位: 億円

	売上高比		前年同期比		売上高比		前年同期比	
	3Q21累計 2021年4月～2021年12月	3Q20累計 2020年4月～2020年12月			FY21見通し (2021年11月修正) 2021年4月～2022年3月			
売上収益	1,656.0	1,560.7	+6.1%	+95.3	2,285	+7.3%	+155.0	
売上原価	77.8% 1,288.2	81.5% 1,272.7	+1.2%	+15.4	78.2% 1,787	+3.5%	+59.8	
売上総利益	22.2% 367.8	18.5% 288.0	+27.7%	+79.9	21.8% 498	+23.6%	+95.2	
販売管理費等	12.4% 204.9	12.0% 186.7	+9.7%	+18.2	12.2% 278	+6.8%	+17.7	
営業利益	9.8% 163.0	6.5% 101.3	+60.9%	+61.7	9.6% 220	+54.4%	+77.5	
税引前利益	10.6% 176.0	5.9% 92.3	+90.7%	+83.7	9.4% 215	+53.2%	+74.7	
当期利益	7.0% 115.2	3.8% 58.8	+96.1%	+56.4	6.0% 137	+41.1%	+39.9	

- ・ 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載
- ・ 当期利益は、親会社の所有者に帰属する利益を表示

IV. FY21業績見通し(21年11月より変更なし)

単位: 億円

	売上高比	売上高比	進捗率
	FY21見通し (2021年11月修正)	3Q21累計実績 (2021年4月～12月)	
売上収益	2,285	1,656	72%
売上原価	78.2% 1,787	77.8% 1,288	72%
売上総利益	21.8% 498	22.2% 368	74%
販売管理費等	12.2% 278	12.4% 205	74%
営業利益	9.6% 220	9.8% 163	74%
税引前利益	9.4% 215	10.6% 176	82%
当期利益	6.0% 137	7.0% 115	84%

	売上高比	前期比	
	FY20実績 (2020年4月～2021年3月)	(FY21見通しとFY20実績の比較)	
	2,130.0	+7.3%	+155.0
	81.1% 1,727.2	+3.5%	+59.8
	18.9% 402.8	+23.6%	+95.2
	12.2% 260.3	+6.8%	+17.7
	6.7% 142.5	+54.4%	+77.5
	6.6% 140.3	+53.2%	+74.7
	4.6% 97.1	+41.1%	+39.9

3Q21決算発表日時点のFY21見通し状況の想定

- ◆ 売上収益 : PTC売上ずれ込み等でFY21見通しに対して若干ビハインドの状況認識
- ◆ 営業利益 : NWサービス積み上げ・モバイル接続料改定等でFY21見通し超過の状況認識
- ◆ 税引前利益 : ディーカレット暗号資産事業売却関連損失を吸収しFY21見通し超過の状況認識

- ・ 販売管理費等は、販売費及び一般管理費(研究開発費を含む)、その他収益、その他費用の合計額を記載
- ・ 当期利益は、親会社の所有者に帰属する利益を表示



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。